

ノスリ

山の木々が赤や黄色に染まり、水面は冬のカモたちでにぎわってきました。毎年、カモたちといっしょにウェットランドで冬を越すのが、写真のノスリ。トビより少し小さい、ずんぐりしたタカです。



図鑑によれば、ノスリの繁殖地はユーラシア大陸の温帯から亜寒帯にひろがり、日本でも北海道から四国にかけて繁殖するとあります。しかしながら、広島県では夏季の観察例はなく、定住はしていないようです。また、ねらう獲物はネズミ、カエル、ヘビ、昆虫、鳥などと、猛禽類にはめずらしく幅広いようですが、冬にありつけるのはネズミと鳥ぐらいでしょうか。

ウェットランドでは、ノスリはよく人工巣塔にとまります。人工巣塔をもっともよく利用するのは、定住者のミサゴです。昨年、巣塔にとまっていたノスリに、ミサゴがおそいかかり追い払う光景を見ました。魚とり専門のミサゴにとって、餌で競合する相手ではありません。お気に入りの場所をかってに使われると、腹が立つのでしょうか。

昨年、ノスリの声を初めて聞きました。トビの「ピーヒョロロ」に似ていますが、後半の「ヒョロロ」はありません。毎年姿は見てきたのに、何事かなとあたりを見回したら、もう一羽ノスリがいました。普段と違うことをする時には、きっと何か原因があるものですね。